# 遺品の整理

あなたが突然に黄泉の国に旅立ってから、三年が過ぎました。
暫くは泣いてばかりの日々でしたが、歳月は少しずつ私を癒し、強くしてくれていますので安心して下さい。

私も今年は八十一歳になり、元気なうちにと身辺の整理を始め、私の分は終わり、今は物に溢れているあなたの部屋の整理に取り掛かっております。

あなたは、地方紙にペンネームで載せてもらうエッセイを、夜になると書斎に籠りよく書いておりましたね。それを纏めたノートが六冊あり、三年に渡り三百三十回も投稿しているのには驚き、感服しました。あなたの少年時代のこと、五十代で亡くなられた両親のこと、戦時中のことなど、懐かしく読み返しております。

川柳も詠み、新聞に投句すると、良く入選しておりましたね。その入選句を切り抜き貼った古いノートが先日見つかりました。再び読んでみると、ウィットに富み、上手なのには感心しました。私がモデルであろう句も多く

**「ねぇあなたやりくりの尻持ち込まれ」　「でかかった侠気へ妻の目が光り」**

には思わず笑いました。これらの作品は、私や子どもに何よりの形見になります。大切にして、時々読み返し、子や孫にも伝えていこうと思っています。

あなたは沢山本を買って、暇さえあれば手にしていましたね。読書があなたの執筆力を高めたのかも知れません。千五百冊余りの本は、定年後に読んでみたいと言う読書家の娘に全部委ねることにしました。

三十冊の日記帳はざっと目を通し、幼い頃の子どものことを書いているページは、コピーして二人に渡すと、とても喜んでくれました。それから、日記の中の紀行文は、すべて大切に残しておりますよ。あなたと一緒に国内外と旅をした楽しい思い出は、私の心の中の宝物となり、生きる糧になっております。

あなたは定年後も三人の仲間と月に二回、ギターの演奏を楽しんでいましたね。亡くなる五日前も、楽しそうに歌いながら演奏していた声が、今も耳を離れません。愛用していたギターは、あなたの甥の所に貰われて行く予定です。

遺品の整理をしながら、結婚生活の足跡を回想し、素敵なあなたに出会えた幸せをしみじみと感じ、心から感謝しております。

**「胸中にいつも亡き夫ほととぎす」　「亡き夫の匂ほのかに土用干し」**　妻より。